



わが家のアイドル

旧岡方村にお住まいの
浅川 弘さん・諭美さんの

長女 **萌**ちゃん(1歳1か月)

色々な言葉も覚えて
おしゃべりも上手になりました。
たくさんお話聞かせてね。



下田市内の指定文化財

その41

国指定重要文化財

阿弥陀如来坐像

所在地 田牛 長谷寺

指定日 大正8年4月12日

下田市の南の奥座敷、田牛地区の長谷寺の本尊は、等身大の阿弥陀如来坐像です。実はこの像は、伊豆南部を代表する仏像の名品。大正8年に国宝に指定され、法改正により、現在は重要文化財です。



長谷寺阿弥陀如来座像

阿弥陀如来とは

阿弥陀如来は、久遠の寿命と無限の光を持つ仏。この仏は、生類全てを救済する誓願を立てて西方に極楽浄土を築いたとされ、信者を極楽に迎え取るとして信仰されました。長谷寺阿弥陀如来坐像には、頭上に肉の盛り上がりがあり、頭髮はタニシのようです。これは悟りを開いた如来の特徴。指の間に水かき（縵網相）が

あるのは、もれなく救済する、如来の力を表しています。一方、印相（手の形）は、座禅をする際に結び印ですが、親指と人差し指で輪を作っています。これは阿弥陀像特有の印相なのです。



穏やかな表情が印象的

長谷寺像の様式

長谷寺阿弥陀如来坐像は、夢見るような、穏やかな表情が印象的な仏像です。衣の襞は浅く、撫肩で、体つきは華奢ですが、こうした作風を、定朝様といえます。

定朝は、平安中期、優美な仏像を造った仏師で、彼の作風が定朝様です。定朝様は貴族から「仏の本様」と絶賛され、仏像の模範とされました。その結果、平安後期、全国各地で定朝様の仏像が造られました。長谷寺像はその優れた例の一つなのです。反面、この像には、角張った

た頬やとがった肉髯、左右のバランスが少し崩れた膝など、均整を重んじる定朝様とは異質な点もあります。そこで本像は、定朝様の影響を受けつつ、地方で制作された仏像であると推測できるのです。

漂着仏伝説

長谷寺像は江戸時代に修復されています。その際の修理木札には、この仏像は、平安末期の寿永4年(1180)、近くの遠国島の岳浦に漂着したと記されています。これは事実なのでしょう。残念ながら像には、海上を漂流したような痕跡はありません。しかし、この像の時代様式は、12世紀後半のものです。

木札の記述は、仏像が寿永4年前後に造られた後、船に乗せられて海を運ばれ、この地に来たという記憶を伝えるものもありません。(市文化財保護審議委員 田島) アクセス 下田駅より田牛行きバス、前の浜下車徒歩5分 問合せ先 教育委員会生涯学習課 ☎ 5055



浦岳山長谷寺(田牛)

